



認証番号0013549

株式会社十勝大福本舗

## 2023 年度 環境経営レポート

(対象期間: 2023 年4月1日 ~ 2024 年3月31日)



十勝からのお福分け

TOKACHI

作成日: 2024年6月27日

## 目 次

項 目	ページ
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	7
環境経営計画の取組結果とその評価	8
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	12
代表者による全体の評価と見直し・指示	12



## 環境経営方針

### ＜環境経営理念＞

株式会社十勝大福本舗は安全・安心でおいしいお菓子づくりを通じて、地球環境との共生と持続可能な成長の両立を目指します。

安全・安心なお菓子をお客様に届けるため、衛生管理の徹底と効率的な生産に取り組みます。そして変化を恐れずに全社一丸となって常にチャレンジを続けて継続的改善に努めてまいります。

### ＜環境保全への行動指針＞

1. 環境関連法規制やコンプライアンスを遵守します。
2. 創意工夫による省エネルギー・水資源の有用利用により二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 廃棄物の発生抑制、食品リサイクル率の維持向上に努めます。
4. 環境に配慮した製品の研究開発に努めます。
5. エコ活動を通じて明るく活気のある職場づくりを推進します。



制定日：2021年2月4日

代表取締役 駒野 裕二

## □組織の概要

### (1) 名称及び代表者名

株式会社十勝大福本舗  
代表取締役 駒野 裕二

### (2) 所在地

本社工場	住所 〒089-0614 北海道中川郡幕別町緑町7番地
東京工場	住所 〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井590-1
ふじみ野工場	住所 〒356-0051 埼玉県ふじみ野市亀久保字大野原2176-4
江別工場	住所 〒069-0832 北海道江別市西野幌120-6

### (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	常務取締役 澤井 裕一郎	TEL: 049-258-6888
担当者	総務部 海老名 貴志	TEL: 049-258-6888

### (4) 事業内容

本社工場	量販店向け菓子の製造、館の製造
東京工場	コンビニエンスストア向け菓子の製造・開発
ふじみ野工場	関東向け菓子の保管、出荷拠点
江別工場	量販店向け菓子の製造

### (5) 事業の規模

売上高		105 億円			
従業員	名	本社工場	東京工場	ふじみ野工場	江別工場
延べ床面積	m <sup>2</sup>	3059.28 m <sup>2</sup>	4234.8 m <sup>2</sup>	1619.13 m <sup>2</sup>	570.45 m <sup>2</sup>
					9483.66 m <sup>2</sup>

### (6) 事業年度

4月1日～3月31日

## □認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 株式会社十勝大福本舗  
対象事業所: 本社工場  
東京工場  
ふじみ野工場  
江別工場  
活動: 小豆加工食品、和菓子・惣菜食品の製造販売

## □事業や製品(商品)の紹介

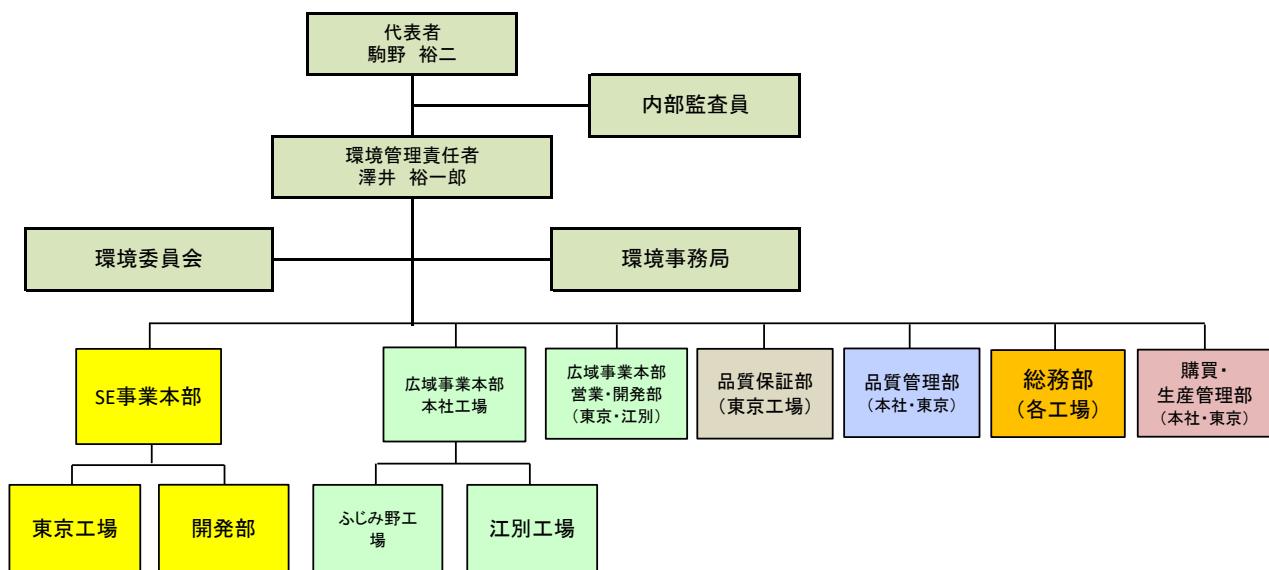
### 工場及び製造品目

本社工場	大福、もち、おはぎ、だんご、たい焼き、餡等
東京工場	大福、もち、パフェ、だんご等
ふじみ野工場	なし(出荷工場のため)
江別工場	大福、もち、おはぎ、どらやき等

販売エリア 主に北海道、関東エリア  
生産量 1日約250,000食(本社工場 90,000食、東京工場 150,000食、江別工場 10,000食)



## □環境経営組織図及び役割・責任・権限表



役割・責任・権限	
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・環境管理責任者を任命</li> <li>・経営における課題とチャンスを明確にする</li> <li>・環境経営方針を定め、誓約する</li> <li>・環境経営を実践するための必要十分な実施体制の構築</li> <li>・実施体制において各自の役割、責任、権限を定め、従業員に周知する</li> <li>・実施及び管理に必要な経営資源(人、もの、資金、情報等)を準備する</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画書を承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直し、指示</li> <li>・環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画書を確認</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐、の事務局</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施</li> <li>・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>・環境活動の実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)</li> </ul>
環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営計画の審議</li> <li>・環境活動実績の確認・評価</li> </ul>
部門長 工場長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境経営方針の周知</li> <li>・自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施</li> <li>・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>・試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
内部監査チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する内部監査の計画</li> <li>・環境に関する内部監査の実施・報告</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## □主な環境負荷の実績

項目	単位	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	7,505,784	7,141,665
電力	kWh	6,284,305	6,155,192
電力のCO <sub>2</sub> 排出係数(※)	kg-CO <sub>2</sub> /kWh	0.519	0.530
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	3,241,038	3,263,022
化石燃料	kg-CO <sub>2</sub>	4,264,747	3,878,643
廃棄物排出量			
一般廃棄物排出量	kg	78,291	71,640
産業廃棄物排出量	kg	1,865,939	1,675,953
食品廃棄物			
発生量		1,186,679	1,207,162
発生抑制量		0	0
再生利用量		1,011,659	1,043,452
熱回収量	kg	175,020	163,710
減量量		0	0
再生利用以外の量		0	0
廃棄物処理量		0	0
食品再資源化実施率	%	99%	99%
水使用量	m <sup>3</sup>	191,436	186,683

※電力の二酸化炭素排出係数(R4年度実績・R5年12月22日環境省・経済産業省公表)

本社工場 0.620 CO<sub>2</sub>/kwh (日鉄エンジニアリング)

東京工場 0.465 CO<sub>2</sub>/kwh (日本テクノ)

ふじみ野工場 0.465 CO<sub>2</sub>/kwh (日本テクノ)

江別工場 0.490 CO<sub>2</sub>/kwh (トドック電気)

□環境経営目標及びその実績

数値目標:○達成 ×未達成

項目	年 度	2022年	2023年		評 価	2024年	2025年
			上段:通期排出量	下段:通期対比			
		(基準値)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	3,241,038	3,176,217	3,263,022	×	3,111,396	3,046,576
	基準年度比	2022年	98%	101%	×	96%	94%
	kg-CO2/千円	0.290	0.284	0.300	×	0.278	0.272
都市ガスによる二酸化炭素削減(東京)	kg-CO2	1,106,127	1,084,005	1,068,546	○	1,061,882	1,039,760
	基準年度比	2022年	98%	97%	○	96%	94%
	kg-CO2/千円	0.096	0.094	0.098	×	0.092	0.090
LPGによる二酸化炭素削減(本社・ふじみ野)	kg-CO2	351,513	344,483	341,026	○	337,453	330,422
	基準年度比	2022年	98%	97%	○	96%	94%
	kg-CO2/千円	0.030	0.030	0.031	×	0.029	0.029
LNGによる二酸化炭素削減(江別)	kg-CO2	523,864	513,387	488,999	○	502,910	492,432
	基準年度比	2022年	98%	93%	○	96%	94%
	kg-CO2/千円	0.045	0.044	0.045	×	0.044	0.043
ガソリンによる二酸化炭素削減	kg-CO2	39,060	38,279	35,737	○	37,498	36,717
	基準年度比	2022年	98%	91%	○	96%	94%
	kg-CO2/千円	0.00338	0.00331	0.00328	○	0.00324	0.00318
軽油による二酸化炭素削減	kg-CO2	2,879	2,822	2,143	○	2,764	2,707
	基準年度比	2022年	98%	74%	○	96%	94%
	kg-CO2/千円	0.000249	0.000244	0.000197	○	0.000239	0.000234
A重油による二酸化炭素削減(本社)	kg-CO2	2,008,110	1,967,948	1,734,400	○	1,927,786	1,887,623
	基準年度比	2022年	98%	86%	○	96%	94%
	kg-CO2/千円	0.17377	0.17029	0.15939	○	0.16682	0.16334
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	233,193	228,529	207,792	○	223,865	219,201
	基準年度比	2022年	98%	89%	○	96%	94%
	kg-CO2/千円	0.0202	0.0198	0.0191	○	0.0194	0.0190
二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	7,505,785	7,355,670	7,141,665	○	7,205,554	7,055,438
一般廃棄物の削減	kg	78,291	76,725	71,640	○	75,159	73,594
	基準年度比	2022年	98%	92%	○	96%	94%
廃プラの削減	kg	229,855	225,258	218,906	○	220,661	216,064
	基準年度比	2022年	98%	95%	○	96%	94%
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	自主目標	96%	99%	99%	○	99%	99%
	食り法目標	46%	48%	99%	○		
	基準発生原単位	kg/百万円	249	249	110.9	○	
水道水の削減	m <sup>3</sup>	191,436	187,607	186,683	○	183,778	179,949
	基準年度比	2022年	98%	98%	○	96%	94%
	原単位	m <sup>3</sup> /千円	0.0166	0.0162	0.0172	×	0.0159
化学物質の適正管理		行動目標(次項による)					
環境に配慮した製品・サービスへの取組		行動目標(次項による)					

※電力の二酸化炭素排出係数(R4年度実績・R5年12月22日環境省・経済産業省公表)

	2022年	2023年	
本社・工場	0.589	0.620	(日鉄エンジニアリング)
東京工場・営業所	0.485	0.465	(日本テクノ)
ふじみ野工場	0.485	0.465	(日本テクノ)
江別工場	0.324	0.490	(トドック電気)

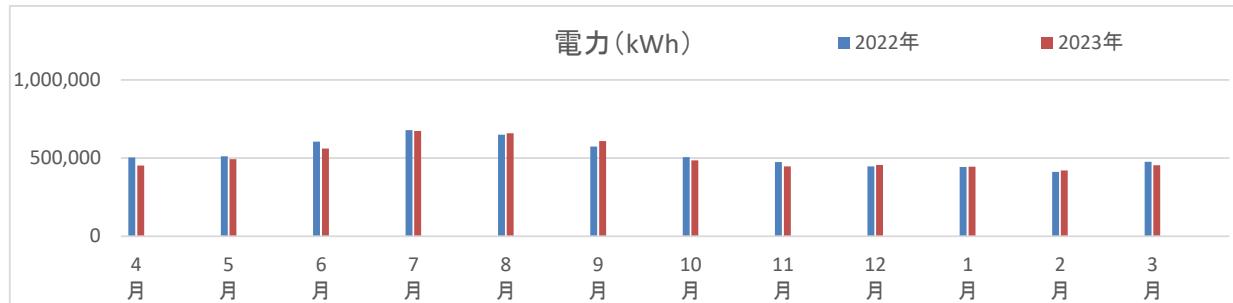
単位:kg-CO2/kWh

## □環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標:○達成 ×未達成

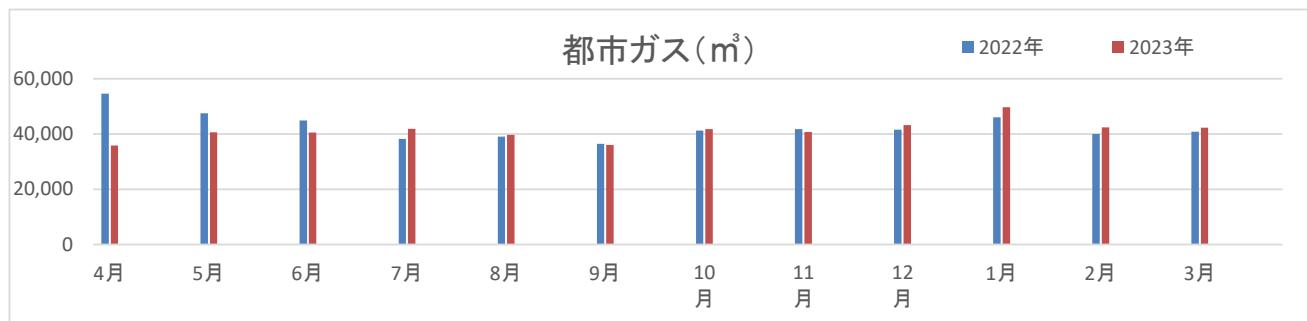
活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標		×		
・空調温度の適正化		○	クーリングトンネルの高効率機器への転換や捕虫器のLED化を行い、CO <sub>2</sub> 排出量低減に取り組んだ。しかしながら、本社・東京工場で取り組んでいるノーカー残業データの取り組みが緩慢となってきたため、次年度では気持ちを引き締めて取り組むよう周知に努めたい。	
・不要照明の消灯		○		
・LED電灯化推進		○		
・節電ポスターの掲示		○		
・仕事の効率化による定時退社の実施		△		

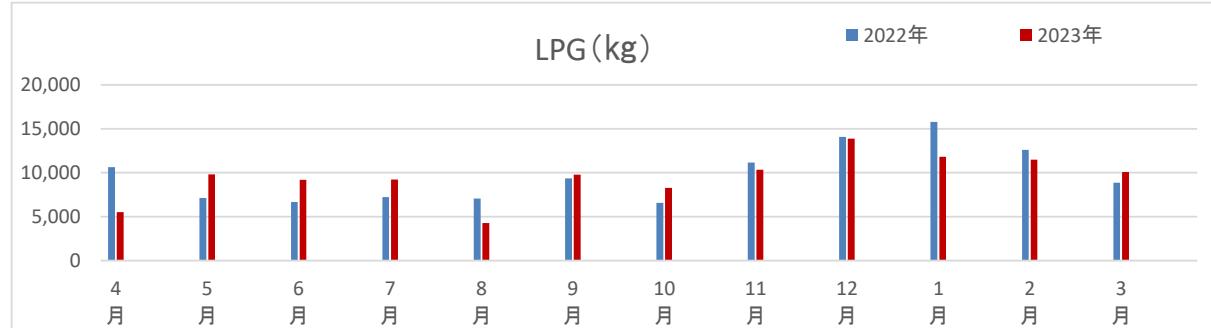


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	504,908	512,098	605,146	679,343	649,774	574,369	506,421	474,835	446,612	442,893	411,267	476,640
2023年	452,624	493,693	560,198	673,482	658,561	609,173	486,422	446,061	455,556	444,152	420,200	455,069

都市ガスによる二酸化炭素削減(東京)		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標		○		
・焼成機のガス管・バーナーの清掃		○	数値目標は達成したが、原単位基準では未達となった。定期清掃はできていたが、秋冬時の配管保温が徹底できなかった。	
・配管の保温		△	次年度以降は保温強化を徹底する。	



LPGによる二酸化炭素削減(本社・ふじみ野)		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標		○		
・焼成機のガス管・バーナーの清掃		○	数値目標は達成したが、原単位基準では目標未達となった。ガス管やバーナーの清掃は定期的に実施できた。次年度においてはロス削減の施策を強化、また製造ミス削減を目標に使用量減を目指したい。	
・商品ロスの削減		△		



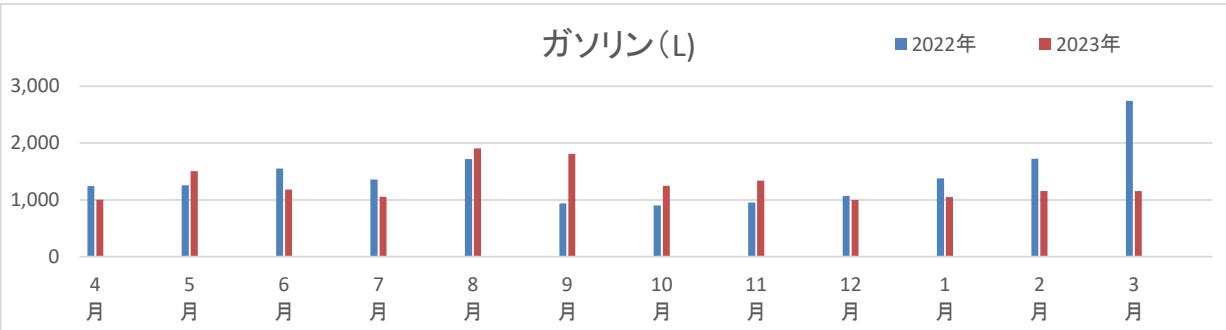
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	504,908	512,098	605,146	679,343	649,774	574,369	506,421	474,835	446,612	442,893	411,267	476,640
2023年	452,624	493,693	560,198	673,482	658,561	609,173	486,422	446,061	455,556	444,152	420,200	455,069

LNGによる二酸化炭素削減(江別)		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標	○	数値目標は達成したが、原単位基準にて目標未達。		
・定期点検を行う	○	引き続き効率の良い生産意識を持って、取り組んでいく。		



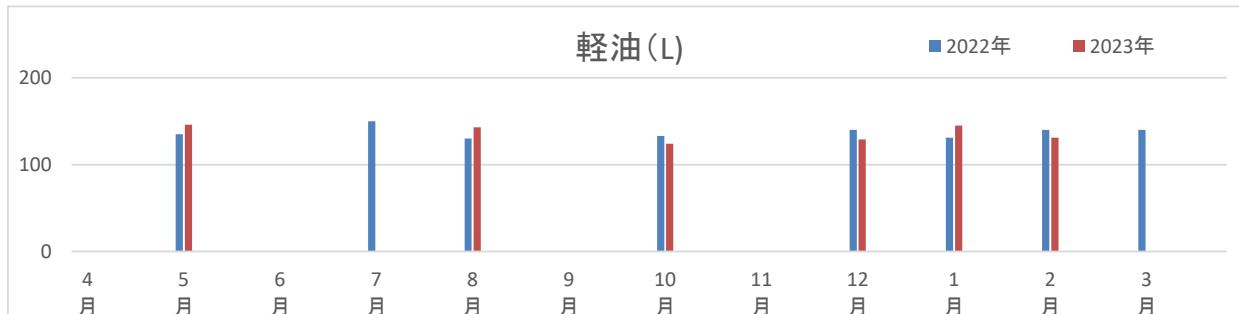
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	16,046	14,494	14,181	17,484	15,955	13,469	14,901	16,388	19,718	19,113	16,457	15,818
2023年	12,599	12,288	13,307	14,830	16,246	13,590	12,832	15,140	18,378	18,075	16,647	17,179

ガソリンによる二酸化炭素削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標	○	数値目標、原単位基準ともに達成できた。		
・エコ運転の徹底(急発進などの抑制)	○	エコ運転の実施を継続していくとともに、公共交通機関の使用を徹底し、次年度以降も二酸化炭素排出量の少ない方法での移動を心がけていく。また特定技能従業員の送迎などでもエコ運転を徹底する。		



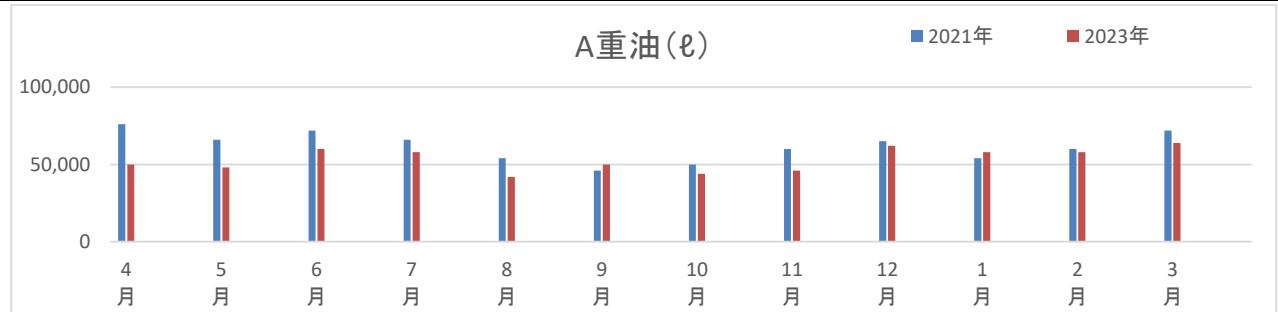
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	1,241	1,257	1,551	1,360	1,721	937	904	955	1,069	1,377	1,724	2,742
2023年	1,002	1,506	1,182	1,053	1,904	1,810	1,246	1,340	1,000	1,050	1,156	1,155

軽油による二酸化炭素削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標	○	本社工場内での荷物輸送のため、10t車で使用。		
・アイドリングストップを心掛ける	○	次年度以降も不要なアイドリングの防止とエコ運転に努めていく。		



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	0	135	0	150	130	0	133	0	140	131	140	140
2023年	0	146	0	0	143	0	124	0	129	145	131	0

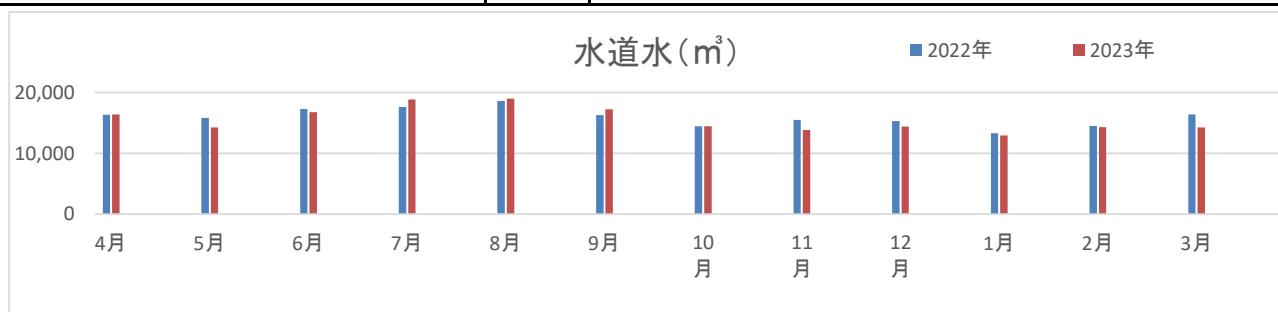
A重油による二酸化炭素削減(本社)		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標	○		数値目標、原単位基準でも達成。ボイラーの交換を行い、効率化が図られている。また自動的に効率の良い運転をしてくれる設定になっており、ボイラー停止などの作業をせずによくなった。次年度以降も今年の効率を維持できるようロス削減などの施策も併せて行いたい。	
・定期点検の実施	○			
・配管の保温	○			



灯油による二酸化炭素削減(本社)		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標	○		数値目標、原単位基準ともに達成。中長期的に高効率ボイラーへ変更を検討していく。	
・定期点検の実施	○			

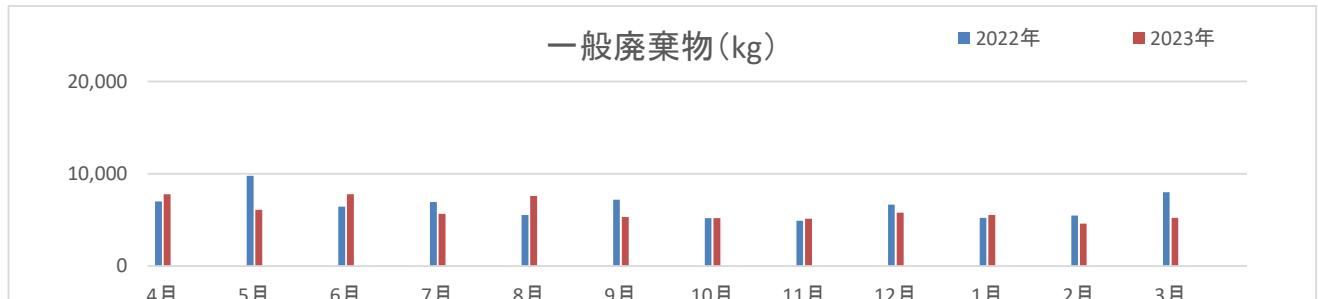


水道水の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標	○		数値目標は達成したが、原単位基準で未達。	
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○		生産商品の違いによるものもあるが、夏場に東京工場の屋上機器へ散水を行った影響が大きい。中長期的に室外機の見直しの必要がある。	
・節水蛇口(ノズル)の取付	○			



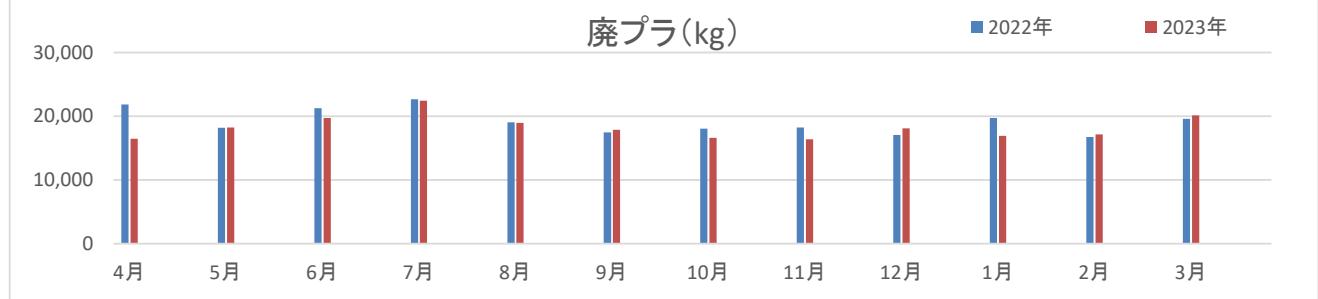
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2022年	16,337	15,841	17,312	17,615	18,634	16,278	14,444	15,492	15,316	13,321	14,478	16,369
2023年	16,377	14,249	16,791	18,832	19,005	17,257	14,424	13,828	14,394	12,950	14,297	14,279

一般廃棄物の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標	○		数値目標達成。コピー用紙購入量の削減はかなり進み、従業員の意識付けが浸透したと考えている。ふじみ野工場からの一般廃棄物が9月以降はほぼなくなったとは言え、それを超える削減ができた。次年度以降も意識付けを継続しておこなっていく。	
・コピー用紙の削減	○			
・ペーパーレスシステムの導入	○			



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	6,999	9,770	6,424	6,928	5,525	7,178	5,185	4,907	6,670	5,235	5,470	8,000
2023年	7,765	6,080	7,780	5,670	7,600	5,325	5,180	5,115	5,775	5,520	4,610	5,220

廃プラの削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標	○		数値目標達成。包材過発注防止による削減、分別の徹底による削減が行えた。次年度以降、破碎・圧縮機など検討を行っていく。	
・包材発注量の精度アップ	○			
・分別の徹底(あん、カスター袋)	○			



食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
数値目標	○		特定技能など外国人従業員も多数いるため、教育に力を入れて削減に努めた。また小豆の皮を製品原料として活用する開発・商品化の取組を実施。	
・原材料発注量の精度アップ	○			
・在庫管理の強化による不良在庫削減	○			
・分別の徹底	○			
・再資源化先の開拓	×		次年度以降も継続して廃棄物削減の意識付けの教育を行っていく。	

化学物質の適正管理		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
・リスクアセスメントの実施	○		リスクアセスメントと安全衛生委員会の中で、従業員の意識強化	
・有害性物質の表示の徹底	○		を行ったが、特定の従業員への教育に留まった。人の入替も激しいが、次年度以降も継続して教育に取り組む。	
・従業員教育	△			

環境に配慮した製品・サービスへの取組		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画	
・ロングセラー商品の開発	○		商品の製造数においては卵不足の時期があり、一時期低調であった。鮮度延長の商品は検討を行ったものの、商品化には至らなかった。環境に配慮した包材は一部商品で採用しているが、全社的な採用には至っていない。コストの関係もあるが、次年度以降も道を閉ざさず、環境に配慮した商品開発を継続して行っていく。	
・日持ちする商品の開発	×			
・環境に配慮した包材の検討	△			
・顧客クレーム削減	△			

## □環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無 法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(動植物性残さ、廃プラス等)
食品リサイクル法	食品廃棄物
容器包装リサイクル法	容器包装
騒音規制法	空気圧縮機
振動規制法	空気圧縮機
水質汚濁防止法	煮湯設備、洗浄設備
下水道法	除害施設
浄化槽法	浄化槽
消防法(危険物)	危険物の保管、地下タンク
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫
省エネ法	特定事業者

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

## □代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年6月20日

### 情報の収集と評価 (Input)

	システム文書	代表者による評価
環境経営目標の達成状況、環境経営計画の実施状況、及びその効果	目標・活動計画フォロー表	環境経営目標は達成した項目が多いが、原単位基準で見ると電力、都市ガスなど主要な項目での未達成が目立つ。未達成の要因を明確にし、24年度への対策を立てて、取組を実施してほしい。
法規の遵守状況	遵法性チェック結果記録	法規の遵守チェックは事務局主導で確認するのではなく、各工場の責任で行うように変更すればよいのではないか。
外部からの苦情・要望、システム全体	環境コミュニケーション記録	23年度に関して外部からの苦情はなかったが、常に周りの方からは見られていると意識をして行動をしてほしい。

発展強化点、要改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標未達成の項目についての対応策の検討。</li> <li>新設された生産技術本部の意見を取り入れ、抜本的な対策の検討。</li> <li>各工場単位での意識強化。</li> </ul>
------------	--

### 指示事項 (Output)

	変更の要否	代表者の指示
環境経営方針	□要 ■不要	昨年同様だが、本活動を通じて環境に対する問題意識を持ち、行動することが企業として社会的責任を果たすことに繋がる。環境経営目標について、前年の2%削減という数値は変えないが、もっとアイデアを出して会社一丸となって達成するという意気込みが見えるような活動を期待している。
環境経営目標	□要 ■不要	どういう施策を行って、数値目標を達成するのかをもっと具体的に検討し、従業員に周知する必要があるのではないか。各工場の環境責任者は課題と対策内容を明確に盛り込み、実施すること。結果の検証もを行い、PDCAサイクルを確立してほしい。
環境経営計画	□要 ■不要	全体的な実施体制は変更なしで良いが、法規の遵守チェックに関しては各工場単位で取りまとめからチェックまでを行う体制にしてほしい。
実施体制 システム全般	■要 □不要	全体的な実施体制は変更なしで良いが、法規の遵守チェックに関しては各工場単位で取りまとめからチェックまでを行う体制にしてほしい。